



映画館の
あつた
場所

川崎ゆきお

市街地の駅前近くにモータープールがある。老人はそれを見ている。その時間が長い。立ち止まったまましばらく経過している。

「何か用事ですか」

その横の信用金庫の警備員が声をかける。二人とも似たような年齢だ。

「駅前に出る機会がめっきり減りましてねえ。たまに出て来たものだから、少しウロウロしているのですよ」

「そうなんですか」

「このモータープールの前は何でしたかな」

「ああ、出来る前ねえ。何だったのでしょうかねえ。忘れちゃったよ」

「そのさらに前だと思うんだが、ここに映画館があった」

「ああ、ありましたねえ。大昔ですよ」

「信用金庫は一寸右に寄りすぎているので、ここじゃない」

「ああ、ここは古いですよ。映画館があった頃からあるような、いや、その後かなあ」

「間口的には、このモータープールが臭いのですがね」

「映画館の左側は何でした」

「普通の家だったように思いますが、覚えているのは映画館だけです」

警備員は道を挟んだ向こう側の通りを指差しながら「ケーブルテレビのビルの横も駐車場があるでしょ。あそこは若草劇場跡ですよ。僕はそれを知っています」と、話を広げる。

この警備員も、昔のことを知っているようだ。老人は若草劇場と聞き、すっかり忘れていたこの劇場も思い出した。洋画専門館のため、馴染みがなかったのだ。この劇場は真っ先に消えた。この老人が小学校の頃だ。父親に連れられて行ったのだが、字幕が読めないので、退屈だった。

「いや、ありがとう」

「いえいえ」

結局映画館のあった場所を特定出来ない。モータープールがそれに近いのだが、間口が狭い。奥行きもない。スパゲティ専門店がその横にあり、ここにも映画館は入らない。その後ろ側はマンションだ。分割されたのだろう。

老人はさらに映画館を思い出した。この駅前には五館あった。そのうち二館は大きなスーパーのビルが建つため壊された。その後、ビルの中に映画館は引っ越したが、すぐに潰れた。そして、そのスーパーも倒産し、ビルも取り壊された。

つまり、映画館が潰れた後に建ったものも、また潰れている。

長く生きていると、最近のものより、それ以前のものに興味がいくようだ。特に記憶の少ない子供時代の。

老人はそれを思い出しながら、歩いていると「あなたですか、映画館のあった場所を探していたのは」と声をかけられた。

「あ、はい」

「警備員さんから聞きましたよ」

追いかけて来たのは、さらに年配者だ。

その説明によると、やはり分割されたらしい。

「もう一つ付け加えておきますとね」

「はい」

「映画館の前は、旅館でした」

「ああ、その時代はまだ生まれていませんでしたよ」

「旅館の前は畑でした」

「ああ」

「その前は、さすがに親父からは聞いていませんがね」

「はい」

「私の年代から言いますと、あの木造三階建ての旅館が懐かしい」

「はあ」

「親父が女と泊まってましてねえ。私は迎えに行ったんですよ。そのとき食べた鰻丼が美味しかった」

「あ、はい」

町には色々な想いが、まだ残っているのだろう。古い記憶の中に。

了